時事の見方

2007.5.31

＊＊＊＊＊　憲法改正について　＊＊＊＊＊

松岡農水大臣が自殺いたしました。

＜質問＞

現職の大臣が自殺するのはよほど追い詰められたとしか思えません。　只、全てを放り出して、現状を受け入れれば他の選択肢が出てきたと思います。捨てられない何かがあって、結果として 命を捨ててしまったと推測します。

老師はどのように観られていますか。

＜回答＞

私は松岡さんという方は、非常に真面目な方であったと想像しております。しかし例の問題については、安倍さんから固く口止めされたと見て居ります。したがって国会の席では質問攻めに合いながら回答が出来なかつた為に、その苦しさが余りにも酷く限界を越えた為に、死を選んだと見て居ります。

＜質問＞

安倍総理は常に松岡氏を擁護しています。任命責任を回避するための手段とすれば幼稚な対応です。これも しがらみの成せる事なのでしょうか。

＜回答＞

安倍総理は松岡氏を擁護しておりますが、背後の問題について

発言することを許しておりませんから、松岡氏としては、非常に苦しかつたと思います。

＜質問＞

　松岡氏の死去によって、参院選までに自民党の支持の低下を狙う民主党の矛先が鈍るのではとの声がありますが。

＜回答＞

　私は松岡氏の死去によって民主党の矛先が鈍るということはなく、民主党は益々激しい攻撃をしかけて来ると思います。

＜質問＞

　国民としてはのらりくらりとした答弁をして国民を馬鹿にしているとしか思えない松岡氏の態度に旧態然の自民党を見る思いがして、国民の痛みを伴った小泉改革は見せかけのものかという批判が有り、自民党離れが加速し、参院選では自民党 惨敗との見方がありました。

　松岡氏の死去によって歯止めがかかるのでしょうか。

＜回答＞

　私は松岡氏として出来る答弁はあれしかなかつたと思いますので、松岡氏の立場は、非常に気の毒であつたと見て居ります。

　小泉改革が見せかけだった訳ではなく、古い時代の仕来りがまだ残っていたという事ではないかと思います。

　自民党離れが加速する事はあると思いますが、それをどの辺で食い止める事が出来るかは、今後の課題であると思います。

　松岡氏の死去によって歯止めが掛かるという事は、無いと思います。

＊＊＊＊＊　ＴＯＢについて　＊＊＊＊＊

　５月１日から外国企業が日本の子会社を通じて、株式交換でＴＯＢが可能になりました。

＜質問＞

　世界標準であるとの事ですが、投資ファンドの格好の標的として日本市場が見られております。

＜回答＞

　日本企業の一部が、外国投資ファンドの格好の標的となっていることは、日本企業の一部がそれだけ高い評価を受けていることを意味する訳ですから、日本資本にそれを買い取るだけの力がないということは、１０年程以前にあつたバブル景気における敗北のツケが廻つて来ただけのことで、日本の資本市場としては、どうにも成らないところであると思います。

　外国資本が日本に入つて来た場合、日本の賃金が必ず安くなるという原則は、考えられないと思います。

＜質問＞

　経営者も従業員もボヤボヤしていれば職を失う事態になりそうですが。

＜回答＞

外国資本が入って来た場合、経営者も従業員も一様に職を失うという事は、あり得ないと思います。

＜質問＞

自己防衛として能力向上に努力をしなければなりませんが、急に変われるのは１部の人達で、大多数の残りの人達はますます低賃金で働くしかありません。

＜回答＞

外国資本が日本に入って来た場合、低賃金でも職を得る事が出来ないという可能性は、あり得ると思います。

＜質問＞

あまりバラ色の未来が来るとは思えないのですが・・・。

＜回答＞

あまりバラ色の未来が来るとは思えないと云う事態は、何時の時代でも同じではないかと思います。

＊＊＊＊＊　日本の文化の流行について　＊＊＊＊＊

＜質問＞

欧米諸国の健康ブームから刺身に代表されるヘルシー食材が普及して、マグロは値段が高騰しています。

＜回答＞

マグロの値段が高騰しているからといって、日本の経済が

安泰であるということは、考え難いと思います。

＜質問＞

各国の若年層へは日本の漫画文化が浸透しています。

＜回答＞

各国の若年僧に日本の漫画文化が浸透していることが、日本国民の優秀さを示すことにはならないと思います。

＜質問＞

これらの新しい動きを見ると、日本の未来はまだまだ捨てたものではないという気がしますが、

＜回答＞

マグロの値段の高騰や、日本の漫画が外国の若者に人気があることでは、日本国民は自信を持つべきではないと思います。

＜質問＞

現在の若者は管理社会の中で汲々としているように見えます。

＜回答＞

現在の若者が、果たして管理社会の中で急々としているかどうかは，見方の分かれる処で、極く若い年代層の間では、社会からの見方を無視して、自分独自の生き方を求める人々が、増えているという傾向がないとも云えないような様子が、出始めているのではないかという印象を持ち始めております。

唯日本における最も重大な課題は、教育制度の問題であり、教育者にもつと自信を与える事、

教育者の生活水準をもっと引き上げる事、

教育者を尊重し教育者の社会的な水準をもっと引き上げること、

教育者の自主的な活動を認めること、

教育委員の存在や教育者以外の人々の教育界における活用が

果たして教育界によい影響を与えるのか、

教育制度は教育者自身にもつと管理を任せるべきではないか

というような問題が、山積しているような印象を持つており

ます。

＊＊＊＊＊　マスコミの主張について　＊＊＊＊＊

＜質問＞

　小泉改革の浸透により、談合等が連日マスコミを賑わして

います。これは１つの成果ですが、マスコミの取り上げ方が

興味本位となっており画一的な内容になっているのが気に

なります。

＜回答＞

　談合等の問題に関連して、マスコミの取り上げ方が、興味

本位になっているとか画一的な内容になっているとかの問題に

ついて、果たしてそのような傾向があるのかどうかが、どうも

私には見えないように思もわれます。

以上